アートを通して人間と自然の未来を考える

飯舘村は阿武隈山系の北に位置し、２０１７年に長泥地区を除き帰村が認められるまで原発事故により全村避難を余儀なくされていました。地域の歴史や営みのなかで築き上げた生活が中断していましたが、今また再び動き出そうとしています。しかし、その生活は事故前に戻ることはありません。人間が自然を利用する技術は、炭焼きや堆肥作り、農産物の生産、山菜の採取といった里山の暮らしを支えるものから、エネルギーの生産まで膨大な範囲にわたっています。複雑に絡み合う自 然と人間の関わりについて考察し表現するためにアートは大きな力を備えていると考えています。

２０２１年度は、里山の暮らしを支える自然を題材に、３人のアーティストの方による活動を行いました。飯舘村で栽培した農作物を利用した作品、森林の木々の落葉を題材としたアートワークショップ、里山から伐採された木材を利用した作品の制作など、アーティスト一人ひとりが村内の方々と協働して作品の制作を行いました。２０２２年度以降も今回参加されたアーティストの活動を継続しつつ、この地域の新たな歩みに共感するアーティストを招聘して飯舘という里山での社会実装をともなったアート制作と展示を進めていく予定です。

アートが持っている発信力や人を力づけるエネルギー、人々を引き付ける魅力は、新たな歩みを踏み出そうとする地域の大きな力となります。

作品がその姿を現すにはたくさんの方の支えが必要です。一人でも多くのみなさんに創造のプロセスに参加していただけることを願っています。

長谷川仁氏による
瓢箪作品とおもちゃカボチャ

酒百宏一氏による
までい花づくりプロジェクト

松田重仁氏による彫刻『地球の実』